

### 第32回『雨の日の昇降口』

第32回目の道德では、急な雨の際他人の傘を無断で借用してよいかどうかで迷う生徒の物語を通して、きまりを守ることの大切さや公德心について考えました。日直の「僕」はある日、先生から言われて、クラスみんなに置きっぱなしになっている傘立ての傘を持って帰るように伝えます。壊れたりほこりをかぶったりした傘がたくさんそのままになっているのです。数日後、朝はやんでいた雨が昼頃には激しく降り始めました。傘を持ってこなかったと騒ぐ級友もいます。放課後、「僕」は、朝持ってきた傘を差して帰ろうとしますが、見当たりません。傘をちゃんと持ち帰り、しかも今日はしっかり持ってきたのにと腹立たしく思う「僕」。そこに、傘を忘れた山村君が、誰かの傘を持ち、「僕」にも1本持っていくように勧めます。手を伸ばしかける「僕」でしたが、別の生徒が持ってきた傘が見当たらないと声を上げるのを見て、「いいよ。僕、やっぱり傘いらないよ。」と言い、雨の中に駆け出していきました。

### みんなの意見

雨の中へ駆け出して行った「僕」は、どんなことを考えていたのでしょうか。

- 自分の物じゃないと思うし、人の物を勝手に借りるのはダメだと思った。
- 人の傘を奪ったらその人が僕と同じような思いをするかもしれないからやめよう。
- 僕が借りたらまた取られて借りようとする人が出てくるから、借りないでおこう。
- 傘はまた見つかると思うから、今日ぐらいはいいか。
- 僕が傘を持って帰りましようと言ったのに、ルールを破ってしまうとダメだと思った。
- 自分の他に困る人が出てくるから、それだったら自分は雨でも走って帰る。

「僕」はこの経験を通して、どんなことに気付いたのでしょうか。

- 自分一人が得をすると、他の人が損をするかもしれないということ。
- みんながルールを守ったら困ったりはしないから、ルールは守らないといけない。
- 山村君のように人の傘を奪う人もいれば、僕のように人に傘を奪われて悲しい思いをする人もいることに気付いた。
- 悪いことをする人の気持ちは、こういう感情から生まれるのだと思った。
- 人が悪いことをしていて、それに誘われても誘いに乗らない。
- ルールを守らないと困る人がたくさん出てくるから、少しでもルールを守る方がいい。

**住みよい社会にするために、  
どんな心構えが必要だろう？**

